

卒業生アンケート【学修成果関連】(2020年3月実施)

2020年3月卒業生に実施した「卒業生アンケート」の集計結果について、本報告は、同結果から本学での学びを通して得た学修成果について分析・評価するものである。アンケートは本学での学びに関する総合的な内容であるが、その内、本学英語科の卒業認定・学位授与の方針が示す卒業時までには獲得すべき能力と密接に関わる学修成果に対する回答の分析を以下に記す。なお、卒業生アンケートは学生の主観にもとづいて回答されるため、客観的にその達成度を測定したデータは一切含まれていない。また本報告は、本学が年次アセスメントポリシーに則り2020年度にまとめたティーチングアウトカムズ(教育の成果)アセスメント報告書より抜粋し、一部編集したものである。

対象者：2020年3月卒業生227名アンケート回答者：202名(回答率88.9%)

なおアンケートへの回答には以下の5つの選択肢を用意し、学生にはその中から一つを選ぶかたちをとっている。

5. 非常に同意できる
4. 同意できる
3. どちらとも言えない
2. 同意できない
1. 全く同意できない

以下の5項目が具体的な卒業認定・学位授与の方針(DP)である。

DP1：キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。

DP2：学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます。

DP3：自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。

DP4：専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。

DP5：地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。

「本学での学びを通して得た学修成果について」のカテゴリー内の21問を見ていく(問19には2つの質問あり)。各質問におけるパーセンテージは、有効回答数をもとに算出されたものである。

表21：本学での学びを通して得た学修成果について ※右端(「5.と4.の合算」)の欄の()内は2019年3月実施のデータ

Q1. 英語で表現された資料を読み、聴き、内容を理解し、資料を収集し、分析・思考し、英語による多様な自己発信、自己表現、人間関係の構築ができた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5.と4.の合算
人数	70	118	13	1	0	0	188
%	34.7%	58.4%	6.4%	0.5%	0.0%	—	93.1% (86.5%)
Q2. 英語を用いた論説(essay)や論文(academic paper)の作成を通して論理的思考にもとづいた表現ができた。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5.と4.の合算
人数	59	114	24	5	0	0	173
%	29.2%	56.4%	11.9%	2.5%	0.0%	—	85.6% (83.1%)
Q3. 英語圏の歴史や文化、社会現象を理解し、その文化圏と日本との関係を比較考察する視野を持つことが出来た。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5.と4.の合算
人数	84	102	15	1	0	0	186
%	41.6%	50.5%	7.4%	0.5%	0.0%	—	92.1% (88.6%)
Q4. 英語を聴く力が向上した。							
	5. 非常に同意できる	4. 同意できる	3. どちらとも言えない	2. 同意できない	1. 全く同意できない	無効	5.と4.の合算
人数	102	89	11	0	0	0	191

%	50.5%	44.1%	5.4%	0.0%	0.0%	—	94.6% (89.1%)
Q5. 英語を話す力が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	62	107	29	4	0	0	169
%	30.7%	53.0%	14.4%	2.0%	0.0%	—	83.7% (70.8%)
Q6. 英語を書く力が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	73	107	18	4	0	0	180
%	36.1%	53.0%	54.0%	2.0%	0.0%	—	89.1% (76.7%)
Q7. 英語を読む力が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	74	110	15	2	0	1	184
%	36.8%	54.7%	7.5%	1.0%	0.0%	0.5%	91.5% (82.2%)
Q8. 英語以外の専門知識が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	94	88	19	1	0	0	182
%	46.5%	43.6%	9.4%	0.5%	0.0%	—	90.1% (88.6%)
Q9. TOEIC のスコア向上に満足した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	59	69	60	13	1	0	128
%	29.2%	34.2%	29.7%	6.4%	0.5%	—	63.4% (55.0%)
Q10. キリスト教ヒューマンイズムの科目（人間学等）を通して人間観や倫理観を深めた。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	53	90	51	6	1	1	143
%	26.4%	44.8%	25.4%	3.0%	0.5%	—	71.1% (70.5%)
Q11. 教養・知識が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	81	109	12	0	0	0	190
%	40.0%	54.0%	6.0%	0.0%	0.0%	—	94.0% (89.1%)
Q12. 論理的思考能力が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	70	107	24	0	0	1	177
%	34.8%	53.2%	11.9%	0.0%	0.0%	0.5%	88.1% (87.1%)
Q13. プレゼンテーション能力が向上した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	96	91	14	0	1	0	187
%	47.5%	45.0%	6.9%	0.0%	0.5%	—	92.5% (89.6%)
Q14. 英語科目以外の科目（教養・専門等）で情報収集や分析の方法が向上した。							

	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	75	113	13	0	0	1	188
%	37.3%	56.2%	6.5%	0.0%	0.0%	0.5%	93.5% (84.0%)
Q15. 自ら学び、探求していく習慣を形成した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	89	98	15	0	0	0	187
%	44.0%	48.5%	7.4%	0.0%	0.0%	—	92.5% (87.1%)
Q16. 世の中の多様性に対する認識を深めた。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	106	87	8	0	0	1	193
%	52.7%	43.3%	4.0%	0.0%	0.0%	0.5%	96.0 (90.5%)
Q17. 他者への敬意を深めた。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	104	85	12	0	0	1	189
%	51.7%	42.1%	5.9%	0.0%	0.0%	0.5%	93.8% (91.5%)
Q18. 授業内のグループワーク活動に貢献した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	77	101	21	2	0	1	178
%	38.3%	50.3%	10.0%	1.0%	0.0%	0.5%	88.6% (84.5%)
Q19①. 授業内のグループワーク活動においてリーダーシップを発揮した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	42	84	64	9	2	1	126
%	21.0%	41.8%	31.8%	4.5%	1.0%	0.5%	62.7% (59.9%)
Q19②. 授業外のグループワーク活動（課外活動、大学行事、サービ斯拉ーニング等）においてリーダーシップを発揮した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	53	60	65	21	2	1	113
%	26.4%	29.9%	32.3%	10.5%	1.0%	0.5%	56.32 (—)
Q20. サービ斯拉ーニングを通して社会奉仕の精神を理解した。							
	5. 非常に同意 できる	4. 同意できる	3. どちらとも 言えない	2. 同意できな い	1. 全く同意で きない	無効	5. と 4. の合算
人数	77	62	39	13	11	0	139
%	38.1%	30.7%	19.3%	6.4%	5.4%	—	68.8% (68.4%)

まず特筆すべきことは、全部で20問ある「学修成果関連」の中で、学修成果が得られたと回答した割合（5.と4.の合算）が90%を超えたものが今回11問あった。昨年度が2つの項目だけだったことを考えると5倍以上の伸びである。実際、昨年度からの伸びは、比較できる20項目全ての平均で見ると8.67%の上昇であった。さらに昨年度のデータとの比較において、「同意」のパーセンテージが下がった項目はひとつもなかった。これは驚くべき結果である。

英語（スキル）および英語圏の事象に関連する質問項目（Q1-7、およびQ9）の結果を見ると、平均で7.7%伸びており、中でも昨年度比で最も数字が上がった2つの設問はQ5の「英語を話す力」（12.9%アップ）と、Q6の「英語で書く力」（12.4%アップ）であった。これには諸々の理由が関係しているだろうが、ひとつ考えられるのは、2019年度は本学でTOEIC SWが様々なかたちで本格導入された最初の年であったということである。例えば、TOEIC SWのスコアが上智大学の2020年度編入学試験に外国語の基準として加えられ、それに対応するように本学の英語カリキュラムにTOEIC SW対策の科目が本格導入され（全部で3科目）、また本学のe-learningシステムとしてスピーキングやライティングのトレーニングもできるNetAcademy NEXTが導入されたのも2019年度であった。そのようなSWに対する学びの機会や意識というものが、2020年3月卒業生の話す力と書く力の改善に直接・間接につながったということが

できるだろう。

多くの項目で学修成果が得られたと回答した割合（5.と4.の合算）は80%を超えた。そんな中であって80%を下回っているのが、TOEICのスコアに対する満足度、キリスト教ヒューマンイズムの理解、リーダーシップの発揮、そしてサービスラーニング（社会奉仕）の4点である。これらは毎年見られる傾向であり、改善は容易ではない。例えば自分のTOEICスコアに対する満足度は、今回から新たに加わったリーダーシップの設問の次に割合が低いという結果になり、全体の36.6%がはっきりと満足しているとは断言できない状態にある。その一方で、最後の2つに関しては、そのような状況に自分の身を置く必要があるため、単純に短期大学部の2年間でリーダーシップの獲得やSL活動への理解を疎かにしたということにはならない。

学生たちの主観による学修成果はかつてないほど高く、そしてその成果は幅広い範囲に及んでいるとすることができるだろう。